

多様な地域資源の活用と地域連携拠点の機能展開 「道の駅」の設置要件と観光を加速する拠点となる複合施設

立命館大学工学部 建築都市デザイン学科

助教 藤井健史 先生

1. 「道の液」とは
2. 道の液の現在とこれから
3. 近年の取り組み事例 **本編では省略しています**
4. 草津市における新たな「道の駅」の可能性



1. 「道の駅」とは



国土交通省 HP より

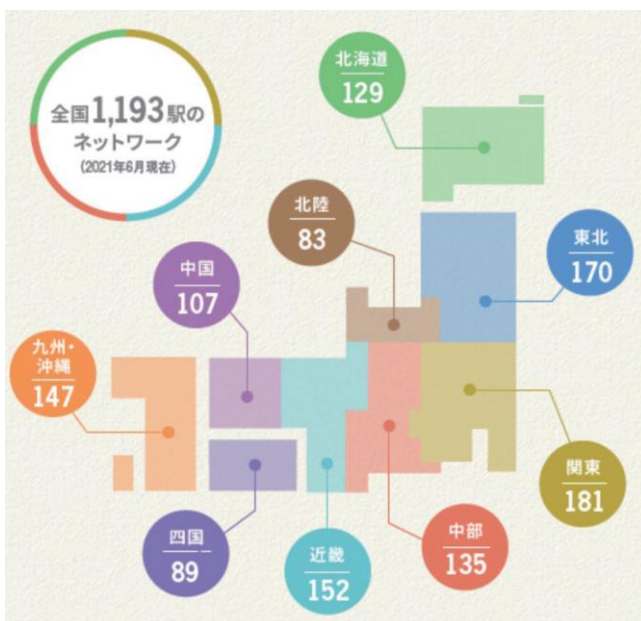
○目的は……

- ・道路利用者への安全で快適な道路環境の提供
- ・地域振興や安全の確保に寄与

○基本構想としては……

- ・休憩施設: 24時間対応の無料駐車場、トイレ
- ・情報発信機能: 道路情報、地域の観光情報
緊急医療情報などの提供
- ・地域連携機能: 文化教養施設、観光リクリエーション施設などの地域振興施設や防災施設 (感染症対策含む)

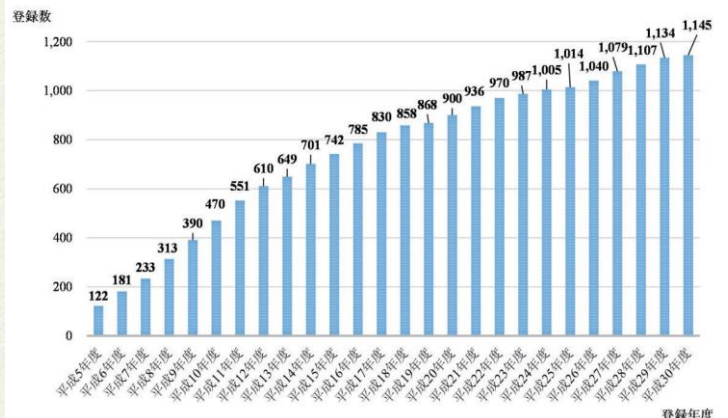
2. 「道の駅」の現在とこれから



道の駅公式 HP より

○平成5年の制度創設以降、28年間で全国に1193駅設置がされた。(令和3年6月11日時点)

「道の駅」の現状と役割の拡大



—地域活性化や防災の拠点として—

道の駅は、第3ステージへ

～創設から四半世紀、2020年からの新たなチャレンジ～

国土交通省 HP 「道の駅」第3ステージ推進委員会資料より抜粋

第1ステージ(1993年～)
『通過する道路利用者の
サービス提供の場』

第2ステージ(2013年～)
『道の駅自体が目的地』

1160 駅
に展開



全国法人
の始動

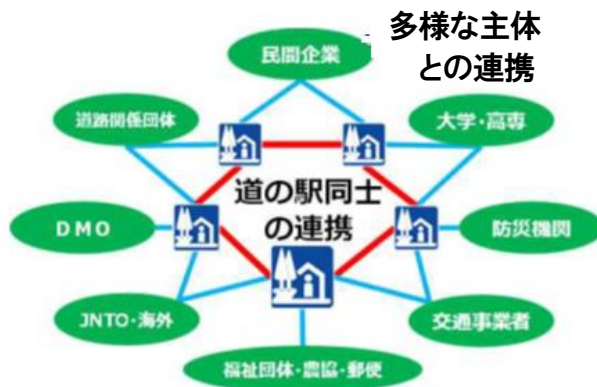
第3ステージ(2020年～2025年)

『地方創生・観光を加速する拠点』へ

+

ネットワーク化で活力ある地域デザインにも貢献

新たな道の駅ネットワーク



第3ステージで「2025年 道の駅」を目指す3つの姿

1. 「道の駅」を世界ブランドへ
 - ・海外プロモーション → 新たなインバウンド観光拠点
 - ・多言語対応やキャッシュレス導入などの基本サービスを用意。
→ 地域の文化体験など地域ぐるみの受入れ環境の充実
 - ・バス、自転車、レンタカーなどの多様な交通手段と地域観光施設情報
→ 周遊の交通拠点
2. 新「防災道の駅」が全国の安心拠点に
 - ・広域的な防災拠点機能を持つ「防災道の駅」認定制度の導入と重点支援
など ⇒ 2021年6月に39駅が初の認定
 - ・地域の防災計画に基づくBCP策定、地域の防災訓練 → 災害時の機能確保
 - ・地域の復旧・復興の拠点 → 情報・や災害支援隊の中継拠点(後方支援機能)
3. あらゆる世代が活躍する地域センターに
 - ・「道の駅」を地域づくりの核として、地域の課題解決や活性化プロジェクト
を民間ボランティアなどさまざまな団体とも協働しながら展開
 - ・子育て応援施設の併設 ⇒ 子育て世代の活躍をサポート
 - ・自動運転サービスのターミナル = 交通弱者の生活ういサポート
 - ・大学との連携によるインターンシップや実習(商品開発等)

地方再生の核としての期待

3. 近年の取り組み事例紹介

本編では省略しています。

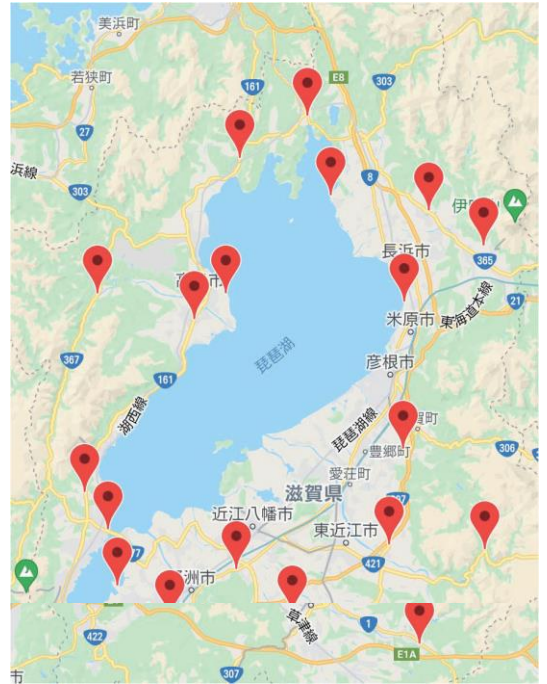
4. 草津市における 新たな「道の駅」の可能性

滋賀の「道の駅」の現状

- 現在、滋賀県には20駅が設置
- うち3か所が「重点道の駅」に認定
 - ・竜王かがみの里/アグリパーク竜王
 - ・浅井三姉妹の里
 - ・あいとうマーガレットステーション
- 甲良町「せせらぎの里こうら」が「防災道の駅」に認定

草津市は、琵琶湖沿いに1駅
「草津グリーンフラザからすま」のみ！

草津市南の厳寒口構想に加わる
新たな「道の駅」の
ポテンシャル



《参考》草津市の特産品

- 草津ブランド
草津メロン/愛彩菜/近江草津米「匠の夢」/琵琶湖元気アスパラ/草津あおばな/琵琶湖からすま蓮根
うばがもち/草津政所(日本酒)/天井川(日本酒)/松里もなか・みかさ/ロートアイアン製品/金属工芸
草津焼/瓢箪
- 美味しい草津の農産物「ベジクサ」
水菜/ほうれん草/青ネギ/壬生菜/春大根/日野菜/かぶら/山田ねずみ大根/金時人参/イチゴ など

新たな道の駅のコーデ

- 農産物や名産品
大津市中央公設市場（果物・野菜・魚介類）との連携
大津市農協・草津市農協との共同
地域ブランド・名産品などの地元企業等の参画
- 大学や近隣施設との連携
コーナー設置のデザインや陳列台などの制作
スポーツ・健康づくりなどの体験コーナー
応援グッズの販売
障がい者施設等の手作り品の販売



立命館大学 HP より



草津 PA と連携した「道の駅」の誕生を支援する要因

高速道路沿いの 人が集う 機能集約型 未来都市 新たな ハイウェイオアシス

1. 「マクロの観点」では

新名神高速道路と名神高速道路や山手幹線などの主要道路が交差する地点

- 広域防災・後方支援部隊の連携地点
- 京阪神への納品車両の休憩地点
- 草津 PA を通るハイウェイバスと地域公共交通の接続が可能な地点

びわこを眺めることができる景勝地

- 温暖な気候と琵琶湖を見下ろす景観形成が可能な地
- 滋賀県南部の歴史等の観光地を展望するしつらえが可能な地 (滋賀県南の玄関口)



MEXCO 西日本 HP より

2. 「メゾの観点」では

大津市と草津市を包括したまちの将来像の形成拠点

- 歴史や観光を誘う案内所 や 公共交通の結末点
- 地産地消と近郊農業をミックスした物産の展示や販売



石山寺



草津塾本陣

3. 「ミクロの観点」では

滋賀県の主要な機能の集結地点

- びわこ文化公園都市
お金のかからない行楽地 ... ウォーキングや自然に親しむエリア



大津中央公設市場



茶室「夕照庵」



子ども広場



ビオトープ

医療・福祉 …… 病院、社会福祉施設、血液センターなど



滋賀医科大学付属病院、



滋賀県長寿福祉センター



血液センター

歴史・文化 …… 図書館、美術館、遺跡群



滋賀県立図書館



滋賀県立美術館



瀬田丘陵生産遺跡群
源内峠遺跡

学術 …… 3つの大学



立命館大学



滋賀医科大学



龍谷大学

健康・スポーツ… 県立体育館、スケートリンク、自然と親しむエリアやウォーキングロード



滋賀県アイスアリーナ



新県立体育館(完成予定図)

愛称は
ダイハツアリーナ
2022年12月 開館予定

○ 地域と連携したむれやま福祉ゾーン



草津養護学校



メイプル滋賀工場



障害者福祉センター



むれやま荘



びわこ学園



精神医療センター
子ども家庭相談センター

グループディスカッションの記録

形態
設定テーマ

1グループ5名x 3グループ

1. 草津の南の玄関口としてふさわしい「道の駅」とは？
2. 草津の地域資源として何が活用できそうか？
3. 地域のニーズとして何が考えられるか？
4. マクロ・メゾ・ミクロの観点から考えてみる



ディスカッションの要約（発表順）

第1グループ（深田、川瀬、服部、飯島、宮本）

1. 玄関口 …“草津、田上インターチェンジ”という名称と範囲のひろがり

滋賀の玄関口としては草津市だけでなく、大津市田上も担っているのではないかと。

田上にある特産、文化として、菜の花漬けやなるこ和紙が存在する。なるこ和紙の技術は滋賀県の無形文化財に指定されており、地元の小学生の卒業証書に使う紙は、体験実習を兼ねて自らの手で作られたなるこ和紙を使用しているという。(https://www.gaido.jp/suteki/15473.html)

2. 滋賀県の「道の駅」と地域活性化の要件

近年新設された「道の駅」は、多方面から来る人々へ地元をアピールするような、または他方からの人々を道の駅を起点として地元を巡ってもらえるような仕掛けを提案している。

一方で、昔ながらの「道の駅」のターゲットとしては、多方面からの人々ではなく、スーパーマーケットのように地元住民であり、現在まで地産地消の文化が根付いてきた。高速道路などが無く、近畿圏からの人々が現在では通らない場所となった湖西方面でその結果が出ており、やはり道の駅には交通の発達が発達が土台として必要不可欠だと言える。さらに、交通の発達によって多方面からの人々が道の駅に立ち止まる必要がある。

3. 近畿圏から見た草津の印象と玄関口としての在り方

本ディスカッショングループ内にいた学生 2 人の出身地が、大阪府(枚方市近く)と守山市であったため、それぞれの学生の持つ草津市に対する印象を比較した。

守山出身の学生の印象としては、滋賀の中では都会というイメージを挙げ、エスクエアや洋服などの買い物をしにいく場所としての利用が多いという。一方、大阪出身の学生の印象としては正反対で、都会というイメージは無く特に行く理由がない場所という結果であった。

→ そのため、偶然通りがかった人が休憩に使う場所としてではなく、何か目的を持って来る人々を作ることや偶然通りがかった人の目を引くような仕掛けが必要である。

◎草津市の標高が全体的に高いことを利用した琵琶湖を望む道の駅であったり、講座にもあった市内を巡るバスの停留所があったりと、目で分かる物理的な何かが必要なのではないかと考えた。

第2グループ（木村、井上、大坪、阪口、蒲田）

1. 学区間の格差

草津市は常盤学区などの琵琶湖側のエリア、矢倉学区などの旧東海道や JR 線沿線のエリア、志津学区などの自然豊かな山手側エリアの大きく3つのエリアに分かれている。3つのエリアはそれぞれ違った観光資源コンテンツを持っているが、エリアごとの格差が生まれてる現状がある。特に琵琶湖側エリアは公共交通インフラが充実しておらず、徒歩圏内に商業施設がない状況である。

想定されている「新しい草津道の駅」は草津市の南端の大津市と草津市の境界線付近に位置するた

め、草津市北端に位置する常盤学区の「現在の道の駅」は対角の「新しい草津道の駅」が「道の駅」内で人の行動が完結し常盤学区に人が流入してこない状況を危惧される。

◎市内の交通網計画を充実させることによって、草津市南の玄関口構想に入っている「新たな道の駅」と「現在の道の駅」の違ったコンテンツを融合させるためには、コンパクトシティ委の3つ目の柱「交通網計画の充実させて、通勤だけでなく、観光面で行き来がしやすいまちの形づくりが望ましいと考える。

2. 草津市観光の拠点として

学区間の格差がある草津において、新たに作られる道の駅が草津市全体に影響を与える必要がある。周辺環境として高速道路のPA、ICや山手幹線がある草津市の南の玄関口に「新しい草津道の駅」を草津(滋賀)の観光の拠点とし、人々が道の駅から市内へ繰り出すシステムの構築は可能と思う。

また、大阪の出身の学生から滋賀県は名古屋や東京へ行く際の通り道の印象が強く、草津市の観光資源については殆ど知らないと言う意見がでた。草津市を通りがかり、たまたま道の駅に立ち寄った時に草津市の魅力情報を一括に手に入れることが出来るものがあれば、道の駅で得た情報から市内へ足を踏み入れる可能性があり、来場者は知る由もなかった魅了あるものに遭遇することが出来るかもしれない。新草津道の駅(仮)は草津市内の学区の魅力情報が集まる情報の駅である。

◎この地は、「2025年」に向けた第3ステージに対応可能な環境が十分に揃っており、計画化は『今がチャンス』と思える。

3. 観光の拠点化した道の駅とは

ここで言う拠点化した道の駅のイメージは探検をする時のベースキャンプである。道の駅には宿泊機能を設ける。宿泊する客は道の駅で草津市のたくさんの魅力情報を得る。その中から自分好みの魅力コンテンツを選び、草津観光をする。市内に出る際の交通手段として、バスや自家用車の他に乗り捨てのレンタサイクルを推奨する。道の駅と市内のいたるところにレンタサイクルを乗り降り出来るポイントを設置することで琵琶湖や歴史、自然と複数の顔を持つ草津市内を自由に各個人のペースで観光することが出来る。このように道の駅を拠点とした草津観光体験は草津探検と言っていいものだろう。

第3グループ (中島、田中、福井、鈴木、穂積)

1. 発信の拠点として

敷地周辺には文化施設や大学があるので、これらの発信の場として、展示企画や遊びながら学びに触れられる要素も集客につながるかもしれない。例えば竜王は、もともとは“なにもないまち”だったが、アウトレットで集客を得ていることなどから、集客力のある企業や団体、農協などとの協力が必要。血液センターの物流拠点なども考えられる。

2. 受信の拠点として

物流拠点のような場所になれば、遠方からの物資・情報が集まる場所になる。例えば北陸から今朝とれた魚介類が入ってくることを活かした市場が作れるなら、周辺住民のニーズを満たすことにつながるかもしれない。

人が各所から集まる場所になれば、大学のニーズを満たす“幅広い層の被験者”が集まることになるので、大学の研究の一端を担う施設としても利用・協力が考えられる。また、周辺大学に通う学生が立ち寄れる場所(カフェなど)としての活用方法も検討の価値あり。

3. 通過点というアイデンティティー

草津は昔から交通の要衝だった。現代における道の駅は、かつての宿場町のようにも捉えられる。通過点でしかなかったとしても、そこにヒト・モノ・情報が集まり生まれていた交流が草津のまちを形作っていたとしたら、これこそが草津のアイデンティティーでありブランディングの要になるのではないかと。